

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立枝光台中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

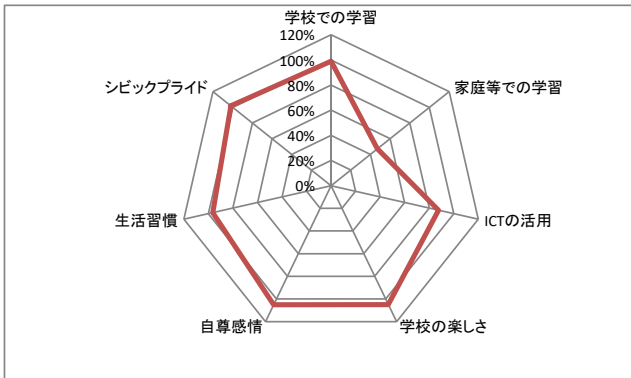
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・知識及び技能では、「我が国の言語文化に関する項目」で全国平均を上回っていたが、平均では大きく下回っていた。 ・思考力、判断力、表現力等では、全国平均を上回る問題が半数あり、全体的に平均点に近い傾向である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「行書の特徴を理解しているかどうかみる」問題では、全国平均を上回っていた。	下回っている
	努力が必要な問題	「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかみる」問題では、全国平均を下回っており、「書くこと」の領域に努力が必要である。	
数学	全体的な傾向や特徴など	・全体的に3つの層（上位、中位、下位）がくっきり分かれている傾向にある。 ・「データの活用」の領域では、全国平均を上回っているが、「図形」の領域へは全国平均を大きく下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「複数のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかみる」問題では、全国平均を上回っていた。	下回っている
	努力が必要な問題	「等式を目的に応じて変形することができるかどうかみる」問題は、全国平均を下回っており、「数と式」の基礎を努力する必要がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「学校に行くのが楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」との問いに対して約90%の生徒が肯定的に回答している。行事を通して仲間意識が芽生え、成長している。
・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の問いに対して全国平均を上回った。各授業で話し合い活動を積極的に行い、主体的・対話的な授業づくりを行った結果である。今後も学校全体で授業改善を進め、生徒の深い学びに繋げていく。
・「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」の問いに対して、平日も休日も全国平均を下回った。家庭学習プリントや週末タブレット学習から、家庭学習の習慣づけを啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・話し合い活動や振り返りシートを行い、自分の考えをまとめ相手に伝える活動をすべての教科で実施した。これからも、主体的対話的な授業づくりを目指す。
・数学の授業では、3年生の授業を2人の教員により習熟度別に行い、基礎・基本の定着を目指している。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、全国平均を上回った。また、給食では、残食が少なく、小中連携の食育キャラクターを掲示し、規則正しい食生活ができています。
・家庭学習定着にむけて、毎日の家庭学習課題やNIEの活動に加え、週末タブレット学習を実施し、家庭学習の習慣付けを行う。